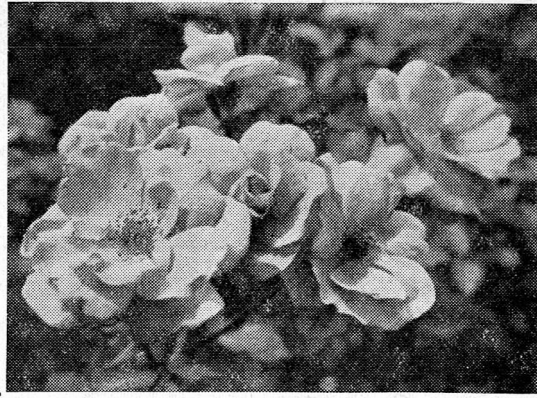


喜久枝さんは、昨年の春高校を卒業し、すぐ市内のある官庁につとめているお嬢さんです。喜久枝さんは、学校時代より花を作る事に興味を覚え在学中より、タリヤ等の球根やいろいろな草花の種子を播いて、花作りを楽しんでおりました。だが社会にも出た事だし何か別な花を作つて見たいと常々考えておりました。六月も過ぎた或る



## バラの品種について

伊藤 奎太郎

事に、喜久枝さんの叔父さんにあたる人は、昔より大変バラ好きで、いろいろの種類を集め庭に植え込んで楽しんでおられますので一度叔父さんを訪問していろいろとバラの事を尋ねて見ようと考えておりました。或る晴れた早春の日曜日喜久枝さんは、叔父さんのお宅をお訪れて見ました。ちやうど叔父さんは、春の陽ざしを一ばいに受けた

縁側に机を出していろいろとバラのカタログを見ながら今年の植え付け計画を考えているところでした。

叔父さんは、喜久枝さんを喜んで迎え、用件を聞く、「喜久ちゃん、突然あらたまつて又おねだりかと思つたら、バラの話かい」と笑いながら原色の写真を取り出して、うららかな春の陽を浴びながら、いろいろとバラの種類等についてお話してくれました。

### バラの種類

『では始めに順序としてバラの種類から話をしよう。現在一般に広く作られているバラを大きく分けて見よう。咲く時期によつて分けて見ると四季咲と一季咲との二つに

分けられる。四季咲とは、札幌附近では六月中過ぎからだろうね。その頃から咲き始め秋遅くまで次から次へと咲き続ける系統で現在一般的にバラという名前と呼ばれているのは、この系統を指している位だ。又一季咲とは、春といつても七月頃に咲き出し後は、翌年まで咲かない系統で中には、一般に一季咲といわれている白不二等のように、秋に再び咲くというような物もあるよ。又樹の枝の伸び方や樹の形によつて、分けて見ると叢生種と蔓生種とに分ける事が出来よう。つまり叢生種とはねちようど枝の出かたが灌木状で枝も余り伸びずせいぜい三〜四尺位でしょう。これをさきに話したように咲く時期によつて一季咲大輪種、四季咲大輪種、四季咲中輪房咲種の三つに分けられる。一季咲大輪種とは、花こそ一回しか咲かないが、花は大きく、樹も丈夫だし、又有名な花例えば、古い品種であるが現在なお有名な白不二等はこの好例だね、次に四季咲大輪種とは、バラ展等に出品されている品種の大部分がこれに属している。花色もいろいろと変化が有り花の形も面白く、現在バラを作るといえは殆どこの種類が多い。又近頃の有名な花はこれ等の内から多く出ているね、最後の四季咲中輪房咲種というのは、最近流行して来た系統で花の大きさは、前の二つに比べて小さいけれども、一つの枝に着生する花の数が多く次から次へと名前の通り数多くの花が房のように咲きつづけるという特性を持つているね。しかも良い事は、樹の育ちも良く、花の色は、夏の暑い

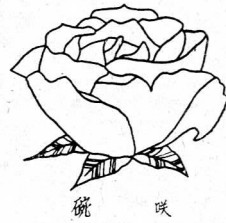
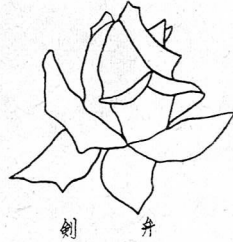
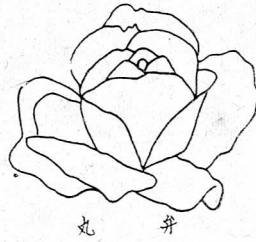
時でも褪色しないという事で、前の二つは個々の花を觀賞するという点におもきがかかるがこの系統は、花壇等に植え込んで集团的な美を楽しむところにこの種の良さが有ると思うね。喜久ちゃんも是非二、三本植えて見たらどうだね。次に蔓生種というのは、今更あらためていう事は無いと思うが、垣根とかアーチに利用されているつるばらである事は、貴女も良く見ている事と思う。この種類にもいろいろとあるけれども、本道のような積雪地では、小輪の一季咲が安心だと思うね、四季咲の大輪種では「ハイヌーン」という黄色の種類があるが、この品種等ならば大丈夫だろう。大体のバラの系統については今まで話をしたが、次に品種について説明してあげよう」といつて一旦話を止めて、叔父さんは、煙草に火をつけたが再び話を続けていきました。

### バラの品種

「ところで喜久ちゃんは、バラを作つてどんなふう利用する心算だね、例えばあくまでも品評会に出品して賞をとりたくとか庭に植えて切花として部屋を飾りたいとか又花壇に植えて眺めて見たいとか、それぞれその利用目的があると思うのだが、どうだね。なにしろバラと一口にはいけれど今まで日本において作られて来たものだけでも、二千位はあるというしまだこれからも殖えていく事だし、まあ今日は、一般的などころを話して見ようか、先ず上げるのは、白不二、赤不二といわれるものだ。

## バラの花形

この二つは原名をそれぞれ「フラウカウル・ドラシユキ」 「ドラシユキールブラ」といつて、一季咲ではあるけれど古くから名な種類で、花も大きく見事だし、木も伸びが良くしかも丈夫であつて、特に寒さ



にシャルマルランが有る。これは最近登場した種類で在来の黒バラといわれているものよりは、ずっと黒バラらしいバラで特に香の強い品種として有名だ。花の形は、丸弁抱合咲きというところで、これの作出

には大変良く耐える。又一季咲とはいえ、秋になつても咲く事は、しばしば有る。始めて作る人は、やはりこの種類から入つていくべきだと思ふね。今でもこの花を好んでいる人は、数多くいるよ。次に順序として四季咲大輪種を色別にお話しよう。

### 紅色系バラ

一般に黒バラといわれている濃紅色の物

者は、有名なピースを作つたフランスのメイヤン氏だ。次にエナ・ハークネスを上げよう。この花は、英国のノーマン氏の作出にかかるといふので、その深紅色のピロードの美しさは、なんともいえぬ位であつて、まあ実物を見る事がつとり早い。英国ではここ数年間最高の品種としての地位を保つている人気のある品種だといわれている。しかも樹性は強健、花色も褪色せず花付き

も良いとあつては、是非植えざるを得ない品種だね。花の形は、正しい剣弁花で香も有る。クリムソングロリーは、古い品種ではあるけれど、バラ作りを始めた人が必ず一度は手掛けるといわれている品種で、今もつて人気の衰えることが無い位だ。花は巨大な剣弁でその色は濃いピロード状の深紅色、しかも香は良く、依然として花壇用に品評会用としての位置は失つていない。又その性質も強健なので初心者には絶対おすすめするよ。この外に赤系ではハッピーネスというのがある。この種類もやはりフランスのメイヤン氏の作出にて、色は濃赤色樹性も強く、花茎が長いため切花用として人気も有り特に秋は水保ちが良いね。この外に名前を上げて見ると、オペラ、ウイリアムハーバー、シャロットアームストロング、ノックターン、切花用としてはヘンスヘルシュレン等が有るけれど、まあ似たりよつたりだね。やはりバラという赤い色とすぐ頭にくる位だから赤いバラを植えておく事は是非必要な事と思う。

### 桃色系バラ

さて、次は桃色のバラだ。先ずモニクから説明しよう。花の形は丸弁の碗咲という形で愛らしい形をしている。色もなかなか上品で香も強く伸びも良い。丈夫なバラの一つで有ると思う。ミシュールメイヤンは、やはりフランスのメイヤン氏の作出したものでね、花容極めて良く又花色も日本人好みする花だ。花付きも良いけれど、なんとなくかな可憐な花と言うか、幾分淋しい感

じがないでもないけれど一本植えておいても良いと思うね。次はヘレントロウベル名前を聞いただけですぐわかるように、有名なオペラ歌手ヘレントロウベルに捧げられたバラで、戦後一時人気が高まり、おそらくこの品種くらい普及したのはピースを除いてあるまいと思う。この苗木は、一九五二年春に同女史が来日した際日本バラ界のために寄贈されたという由來が有り、花付きも良く、強健性で花茎も長い、又開花期も早い方と思われる。初心者向きという人もいるよ。この外に桃色としてはエデンローズ、サンフォニー、コンフィダンス等が有り、コンフィダンスは、有名なピースの子といわれているが、どうも札幌ではその特性が出ないような気がするが花も大きい期待出来る品種のような気がする。

### 黄色系バラ

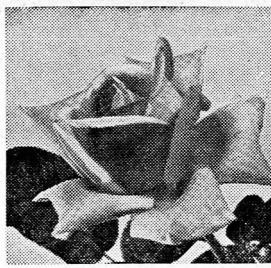
次に黄色いバラの話しよう。昔はこの黄色を出すのに随分苦心したらしい。この事を詳しく話すと、長くなるから別の機会に譲る事しよう。さて最近では、黄色のバラもいろいろと出現して来た。特に黄色には良い物が有るね。先ずゴールデンセプターだが、花の形も剣弁で色は全くの黄色、良く咲いたら見事だよ、花付も良いしね、樹は直立性であつて良いね、勿論切花用としても充分に楽しめる花だ。次のパツカニアは最近米国でいわれているグラディイフロラ系に属するといわれている位だから伸びは良く六〜七尺にも達する事も珍しくなく、花付きも良い。色は黄金色



で特に秋にはその色はさえて美しい花だと思ふ。この外には、黄色と言つても幾分変つた橙色、銅色、柿色等では、新しいところではモハベ、タイス等が有り、それぞれ特色の色彩を出している。色の變つたところも又面白い。次はピースの番だ、ピースの名は、バラの代名詞のようなふうにいわれている位だから喜久ちゃんも既に



オペラ



ピース

ントワヌ・メイアンといい、花は雄大色も薄黄に薄ピンクの覆輪という、ほのぼのとした名前にふさわしい暖かさを人に与えるといつても良いのではないかと思う。樹性も極めて強健病気には強く実には作り易い花だ。フランスの近代バラというよりは、現在では世界のバラといつても過言ではないと思う位だ。なんとかして一本は確保する事だね」といいながら叔父さんは一息入れ

るとお茶を飲みながら、更に続けて「白いバラ」に話を移そう。

### 白色系バラ

白バラは昔は余り良い物がなかつたが最近では、次から次と良い物が出て来た。やはりあの純白な花から受ける感じが日本人に合うとみえて植える人が大変多いようだ。何から説明しようかね、ビルゴから話を始めよう。この花は数少ない白い花の中で近來の名作といわれている。その純白の清楚な花容は、他の白いバラとは異つた感じを与え、花付きも良く、雨に強いといわれている。唯一の欠点は、香の無い事だね。白バラとして一本は植えておきなさい。香の高いものにはアラスカというのがある。色はレモン黄を帯びた、白色花で性質も丈夫だし良い花の中に入るね。更にホワイトスワンは、オランダ産の銘花で色はクリム色を帯びた白色というところで花の形は碗咲で性質も強く白色花中の銘花だ。この外に白いバラでは「スノーホワイト」「エリザベスフォアロー」等が上げられる。

### 複色系バラ

次に四季咲大輪種として複色系というのが有る。この系統は花卉の表と裏とで色が異つているものが多い。例えば「チガリーヌ」というのは特に咲出しが見事な、表が緋紅色、裏が黄という色合いだ。これに類似したものに「マダムジユドネ」「シェラザード」等というのが有る。大体ザーツ考えて現在誰でも入手出来て作り易い品

種を並べて見たがこの外二、三新しい品種を上げて見ると「クインエリザベス」「ゴールデンマスターピース」等有る。前者は、最近いわれて来た、グランディフロラ系の花だね。色は桃色花付も良く、庭園用花壇等に使用して良いのではないかと思う。又後者は、黄色で今後に期待されるといわれており、叔父さんも今年試作して見ようかと考えている。バラもいろいろと新しいものが出て来て遂にプレリウド等という青系統の花も出現して来たようだ。いづれ苗が出廻つて来るようになるだろう」といいながら更に続けて「今まで話をしたところは、どれも四季咲大輪種が主体になつているが今少し四季咲中輪房咲種といつて、花壇などに植え込む事を主体とした種類を簡単に話してみよう。

### フロリバンダローズ

近頃庭園用として集団的な美を觀賞する風が流行して来た。これにはフロリバンダローズといつて房咲きの中輪(花径二〜三寸)種が好まれている。事実花も美しく夏の暑い盛りでも色が褪色しないし樹性も丈夫なので非常に作り易い。是非共植えて御覧なさい。今此処でこれと思うのを紹介すると、赤では「ムーランルージュ」といってその色は名前の通り花が少し小さいと思ふけれども、良い花だ。次に「アラン」といわれるのは、色は濃い緋紅色で非常に目立つた色彩の花だ。樹も丈夫だし花も割合に大きい方だね。又桃色ではファッションを第一に上げよう。この色は四季咲大輪種

では見出せないといわれている位優美な色彩を有している。フロリバンダ系の銘花の一つだね。次にリリベツトはイギリス女王エリザベスの戴冠を記念して捧げられた愛らしいバラだ。更にマ・パークスはこの系統の内での花の大きい種類で咲き振りは大変見事だ。黄色ではゴルドンロックスを推奨したいと思う。又變つたところではマスケラートが面白いと思う。花の色が開花するに従い順次変化してくるというもので蕾の時は黄展開するに従いオレンジ色となり最後に緋紅色となる。樹性も丈夫だし作り易い品種の一つだね。余裕が有つたら一本作りなさい。この外に白色としてはイレネオプデンマーク、グレシヤ等が有り、それぞれ特色が有つて面白いと思うね。大部長時間に互つたので疲れたのではないかな。これで品種の主要の話は終りだ。この内から始めは五〜六本を選定して植え、後は自分の好みに合つた物を殖していく事だよ。今日は品種の話で一日つぶれたが、この次には植え方や栽培に関していろいろ話を上げて上げよう。しかし一つ大切な事は止むを得ない場合以外は、あくまでも自分で最後まで育てていく事だよ。そうして早く立派な花を咲かせて皆をあつといわせるのだね」といつて笑いながら話を終えた。早春といえ話の終つた頃は大部陽もかげりあたりは薄暗くなつておりました。喜久枝さんは、叔父に丁寧に御礼を申し上げると共に、暇を見て再びバラの栽培等の話を聞きにくる事を約束して、今年の開花の頃を夢にえがきつつ一路帰途につきました。